

みずほCustomer Desk Report 2022/08/12号 (As of 2022/08/11)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	- AUD/USD
TKY 9:00AM	132.76	1.0299	136.72	1.2207	0.7082
SYD-NY High	133.30	1.0364	137.39	1.2249	0.7136
SYD-NY Low	131.74	1.0276	136.34	1.2185	0.7063
NY 5:00 PM	132.98	1.0319	137.39	1.2215	0.7105
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	33,336.67	▲ 27.16	日本2年債	▲0.0950%	0.0050%
NASDAQ	12,779.91	▲ 74.89	日本10年債	0.1895%	▲0.0005%
S&P	4,207.27	▲ 2.97	米国2年債	3.2248%	0.0054%
日経平均	-	-	米国5年債	2.9902%	0.0643%
TOPIX	-	-	米国10年債	2.8885%	0.1049%
シカゴ日経先物	28,130.00	▲ 5.00	独10年債	0.9645%	0.0810%
ロンドンFT	7,465.91	▲ 41.20	英10年債	2.0565%	0.1035%
DAX	13,694.51	▲ 6.42	豪10年債	3.3230%	0.0850%
ハンセン指数	20,082.43	471.59	USDJPY 1M Vol	10.05%	0.07%
上海総合	3,281.67	51.65	USDJPY 3M Vol	10.17%	▲0.04%
NY金	1,807.20	▲ 6.50	USDJPY 6M Vol	9.75%	▲0.14%
WTI	94.34	2.41	USDJPY 1M 25RR	▲0.41%	Yen Call Over
CRB指数	295.06	5.78	EURJPY 3M Vol	10.98%	▲0.29%
ドルインデックス	105.09	▲ 0.11	EURJPY 6M Vol	10.85%	▲0.26%

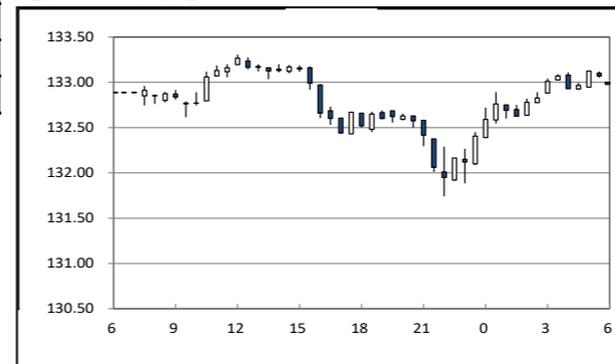
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想	
8月11日	21:30	米 新規失業保険申請件数	-	262k	265k
	21:30	米 PPI (前月比/前年比)	7月	-0.5%/9.8%	0.2%/10.4%

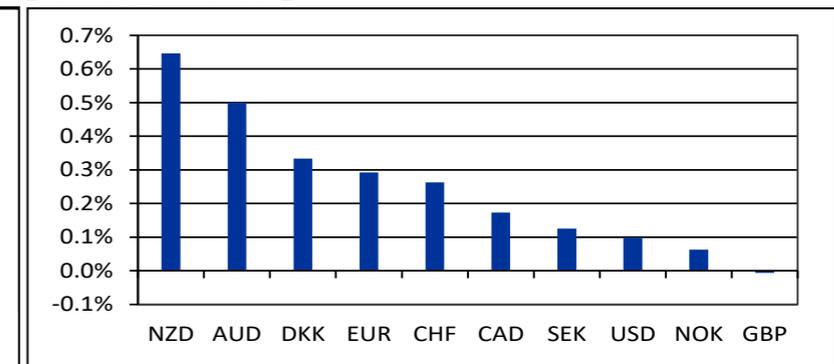
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回	
8月12日	15:00	英 GDP(前期比/前年比)・速報	2Q	-0.2%/2.8%	0.8%/8.7%
	15:00	英 鉱工業生産(前月比/前年比)	6月	-1.4%/1.6%	0.9%/1.4%
	15:00	英 製造業生産(前月比/前年比)	6月	-1.9%/0.8%	1.4%/2.3%
	18:00	欧 鉱工業生産(季調済/前月比)	6月	0.2%	0.8%
	23:00	米 バーキン・リッチモンド連銀総裁 講演	-	-	-
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	8月	52.5	51.5

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	131.50-134.50	1.0250-1.0400	136.30-138.00

【マーケット・インプレッション】

10日、11日のドル円相場は下落する展開。10日の東京時間には五・十日のドル買いもありドル円は135.30円まで上昇。しかし、海外時間に入り発表された米7月CPIが総合指数、コア指数ともに市場予想を下回ったことでドル円は132.00円台まで急落した。しかし、その後はFRB高官からのタカ派な発言が聞かれる中、ドル円は132円台後半まで下げ幅を縮小させた。翌11日には日本が祝日で閑散取引となる中、ドル円は133.30円まで上昇。しかし、その後発表された米7月PPIが市場予想を下振れるとドル円は131.74円下落し、132.90円台でクローズ。本日のドル円相場は上値重い推移を予想する。10日、11日に発表された米物価指標は市場予想を下回る結果となった。これを受けて9月の75bp利上げは50%まで下落しており、ドル円相場の重しとなろう。また、本日は海外時間にミシガン大学期待インフレ率の発表が控えているが、物価指標への反応が大きくなっている中、発表後のボラタイルな展開には注意したい。

アジア	前日NY時間、市場予想を下回る伸び率となった米7月CPIの結果を受けて大きく下落していたドル円は、アジア時間に132.76レベルでオープン。東京休日で取引低調な中、オープン直後に132.62まで下落した後は徐々にドルの買い戻しが優勢となる流れ。米株先物やアジアの株式市場が堅調な値動きとなったこともドル円をサポートし、133円台を回復。一時133.30の中高値をつけたものの午後は上値重く、その後は133円台前半でもみ合い推移となった。終盤にかけては再びドル売りが強まり始め、最終的に133円台を割り、132.99レベルで海外時間に渡った。(香港時間14:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、132.99レベルでオープン。日本が休日の中、昨日同様にドル安の展開。ドル円も132.30まで売られ132.38レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は132円台後半でスタート。日本が祝日で閑散取引だったが、前日のドル売りの反動で買い戻し優勢となり、一時133.30まで上昇。その後、米金利低下や米7月PPI発表を警戒したドル売りが進み132.30まで下落後、132.38レベルでNYオープン。朝方は海外時間の流れを引き継ぎ132円ちょうど付近まで売られ、その後発表された米7月PPIが予想を下振れたことからドル売りが加速し、131.74まで下押しする。しかし、米長期金利が上昇に転じるとドル円も買い戻し優勢となり、132円台後半まで反発。午後は米短期金利も上昇に転じる中、ドル円は底堅く推移。133.12まで上昇し、結局、132.98レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは1.0300付近での小動きでスタート。ドルの買い戻しで一時1.0276まで反落するが、その後は米金利低下を背景にドル売りが進み、1.0343まで上昇後、1.0325レベルでNYオープン。朝方はドル売り継続となり、米PPI発表後に高値の1.0364をつける。しかし、前日高値(1.0369)手前で伸び悩む、その後は米金利上昇が重しとなり、1.0310まで反落。明日に米8月ミシガン大学消費者マインドの発表を控え、終盤は次の材料待ちとなり、結局、1.0319レベルでクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:大谷